



校長室だより 足立区立第九中学校

第64号 平成28年6月7日発行 長塚琢磨



【思いっきり燃えよう！素敵な力を発揮しよう！6月11日の運動会！】

運動会まであと一週間をきりました。この間、校庭では学年種目などの練習で生徒たちの大きな声が響き、うれしく思っています。生徒たちが同じ目標に向かい、集中して全力で取り組む姿は大変たのしく、とても良いものです。生徒の頑張りは、見ている人の心を動かし、学校の活力が高まり学校全体を明るくしてくれています。



学年練習の様子

生徒の気合いに引っ張られて、私も体を動かし始めました。生徒たちが考えてくれた運動会のスローガンは「一致団結 九中魂！！」に決定しました。協力し全力を尽くそうという気迫を感じさせてくれます。保護者や地域の皆様も生徒たちへの応援をお願いいたします。

【社会貢献の心で地域美化活動！】

6月4日（土）の午後に、生徒会が主催する地域美化活動を実施しました。保護者の皆様も参加していただき、ありがとうございました。

地域美化活動は、地域の一員としての自覚と誇りをもち、きれいな町にするという社会貢献の力や思いやりの心を育成する大変重要な取り組みであると考えます。地域の大人との関わりを含め、足立区の次代の形成者の資質を高めてくれてとてもうれしく思いました。



【全校朝礼：「極める勇氣」と「思いやり」で全員が輝こう！】

6月6日（月）に全校朝礼があり、教育実習生3人〔宮田 和夏美（英語科）、栗原 鎮（社会科）、立岡 真由美（養護）〕の紹介をしました。また、運動会まで一週間ということからクラスの団結力を高めて思いっきり取り組んでもらいたいと考え、当時、福岡ソフトバンクの王 貞治名誉監督の話（コラム参照）を例に、自分自身が頑張ることと仲間を支えることの大切さを話しました。



大ムカデの練習

校長として、あまりうまく話せなかったかもしれませんが、御家庭でもみんなで創り上げる運動会にするよう御指導願います。

特に、3年生は最後の運動会ですので、クラスが一丸となって燃え、思い出深い素敵な運動会にしてほしいと考えています。



大縄とびの練習

コラム：〔朝礼での話〕王 貞治がイチローを褒めた話から学んだこと

6年前に福岡で、当時ソフトバンク名誉監督である王 貞治の話をお聞き感動しました。王名誉監督がアメリカを訪問中に、イチロー選手と一緒に夕食を食べようと誘ったが断られたことがあったそうです。イチローは、その時間に毎日トレーニングを行っているのでいけないことを話したそうです。

王名誉監督は、断られて怒るのではなく、自らを鍛える心と行動力のあるイチローを、プロとしての自覚をもって大変褒めていました。

私は、目標に向かって誘いに乗らず、自分自身を高めるために努力するイチローの姿と、そのことを褒め応援する王名誉監督の人間的な大きさに感動しました。

生徒の皆さんにも、自分のやるべきことを全力でやる勇氣と行動力、仲間の夢をかなえるために力になる心をもって、九中全員が思いっきり輝いてほしいと思っています。

【学校を支える地域力に心より感謝】

《第1回PTA常任委員会より》

5月23日（月）に常任委員会が開催され、広報委員会、教養委員会、校外委員会、各学年委員会の活動報告と今後の予定が示されました。

また、運動会や学校公開などの支援についても打合せがありました。学校教育を裏側で支えてくださる力に心より感謝いたします。



《第1回開かれた学校づくり協議会開催》

6月3日（金）に第1回が開催され、加藤喜一郎相談役、廣瀬立男会長をはじめ、多くの委員にお集まりいただき、委員委嘱や本年度事業等が決定しました。

また、情報交換では、九中生の素晴らしさ、学校・家庭・地域の連携の必要性、小中学校教育の系統性や連続性の重要性、子供を取り巻く環境の整備や大人が責任を果たすことなど、具体的かつ建設的な意見が出ました。



開かれた学校づくり協議会委員

【3年生進路説明会(6月4日(土))での校長の話】

当日は、多くの皆様に御出席いただき心より感謝しています。進路指導は、3年生だけでなく、小学生や1年生でも大切です。次のような話をしましたので参考にいただければ幸いです。

「私は、この2ヶ月間、登校時、授業中、放課後、部活動等の大会など、3年生の様子を見て、とっても素敵な生徒たちだと感じています。その素敵な生徒ですから、義務教育9年間の総仕上げとして、自らの手で進路を切り拓いてくれることを期待しています。3年生の皆さん、悩むことや辛いことがあると思いますが、人に勝つのではなく、自分に勝つ覚悟が必要です。皆さんなら必ずできますから、頑張ってください。また、本当に困ったときには、先生が、君たちの家族が、仲間が君たちに力を貸してくれますから、自信をもって進路を切り拓いてください。

保護者の皆様は、我が子の思いを受け止め、我が子に適した進路を、自らの力で決定できるよう、先生と連携して、時には厳しく、時にはやさしく、導いてあげてください。

進路決定への努力は、必ず生徒一人一人にとって、これからの社会を生き抜く貴重な経験になるはずです。15歳の春を、全生徒が胸を張って迎えてくれることを期待しています。」

前へ

少年の日に読んだ「家なき子」の物語の結びは、
こういう言葉で終わっている。

—前へ。

私はこの言葉が好きだ。

物語が終わっても、

僕らの人生は終わらない

僕らの人生の不幸は終わりが無い。

希望を失わず、つねに前へ進んでいく、

物語の中の少年ルミよ。

僕はあの健気なルミが好きだ。
けなげ

つらいこと、いやなこと、かなしいことに

出会うたび、

僕は弱い自分を励ます。

—前へ。

大木実